

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ○全体的に落ち着いた授業態度で、基礎的・基本的な知識・技能を習得しようとする意欲が見られる。	○基礎的・基本的な知識や技能を身につけることができる。 ○ノートや宿題など提出物をきちんと出すことができる。 ○「まちがい」や「なぜ」を通して学習を深めることができる。	○定期テスト・小テスト等で6割以上習得できている生徒が過半数を越える。 ○ノートや宿題の提出率を85%以上にする。	テストの目的を明確にする。まちがいを見直す習慣をつけ、確かな学力を身につける。	目標(めあて)の掲示を習慣にすることができた。 ノートや宿題など提出物をきちんと出せるように、学級担任・教科担任等学校全体で継続的に取組み、成果をあげることができた。	今年度の成果・取組指標ともにほぼ達成できており、基礎的・基本的な知識や技能を身につけることができています。質問教室も25回以上実施することができた。テストの結果だけにとらわれず、まちがいを見直すことで確かな学力が身につくことを実感させていきたい。
課題 ○学習内容の定着に課題があり、学力格差につながっている。	具体的方策(教員の取組) ○授業の最初に目標(めあて)を提示し、授業の見通しを持たせる。 ○小テストや反復練習を行い、基礎・基本の定着を図る。 ○質問教室を週に一度実施して、疑問点を解決する力を養う。	取組指標 ○目標(めあて)の掲示を習慣化する。 ○小テストや反復練習などを、継続的に実施する。 ○質問教室を年20回以上実施する。		評価 A	次年度における改善事項 基礎基本の定着をめざして、板書の方法や、授業の進め方など授業改善に努める。 質問教室の継続実施により学習時間を確保する。 質問教室の方法や内容について検討し、より充実した質問教室を実施する。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ○自分の考えを積極的に表現しようとする生徒が比較的多い。	○筋道を立てて考え、根拠を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。	○定期テスト等で自分の考えを筋道を立てて表現できる生徒の割合を、40%以上にする。 ○授業中に自分の考えを積極的に表現できる生徒の割合を、40%以上にする。	読み物教材や新聞等について、生徒が意欲的に考え表現しようとする題材を提供する。	道徳・特活・総合等教育活動全体で、生徒が意欲的に考え表現できる題材を提供することができた。 それぞれの考えを認め合う学級の雰囲気作りに努めた。 班やペア活動など対話的な学び・深い学びにつながる活動にも取り組んだ。	多くの生徒は、自分の考えを積極的に表現できている。生徒の興味関心がある題材を提供することで、主体的に学習に取り組むことができていた。しかし、根拠を明らかにしながら論理的に説明したり、自分の考えを豊かに表現することは十分ではない。
課題 ○長文や課題を読み取ることに課題がある。内容把握に時間がかかる場合がある。	具体的方策(教員の取組) ○班活動等授業形態を工夫し、自分の考えを表現する場を、継続して設定する。 ○読み取り方を学習させるとともに、新聞のコラム等を利用して、積極的に多くの文章を読ませる。 ○読書や道徳・特活・総合等での活動の後に、自分の感想や意見を3行以上書くという取り組みを継続する。	取組指標 ○道徳・特活・総合等教育活動全体で、さまざまな課題に取り組ませることで、読み取る力を養う。 ○定期テスト等に活用問題をできるだけ多く出題する。		評価 B	次年度における改善事項 根拠を明らかにしながら自分の考えを豊かに表現することができる「表現力の育成」をめざして授業改善の研修を行う。 生徒同士の話し合い活動、教師や地域の人との対話等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」をめざす。 昨年同様、新聞のコラム等、積極的に多くの文章を読ませることで読解力を養うとともに、自分の感想や意見をまとめるという取り組みを継続する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ○意欲的に学習に取り組もうとする生徒は多い。	○「チャイム着席」「忘れ物ゼロ」等基本的な学習習慣を身につけている。 ○自らの課題に、落ち着いた態度で、主体的に取り組むことができる。	○授業にまじめに取り組んでいる生徒を85%以上にする。 ○自らの課題に向けて主体的に取り組んでいると考える生徒が過半数を越える。	学習の意義を伝えながら、主体的に取り組めるように支援する。	「チャイム着席」「忘れ物ゼロ」等基本的な学習習慣が身につくことで、成果をあげることができた。 「自主学習ノート」の提出率はほぼ90%であるが、内容についてはさらに検討する必要がある。	昨年同様、全体的に落ち着いた真面目に意欲的に授業に取り組んでおり、85%以上の目標は達成できた。 学習に対して前向きに主体的に取り組めていない生徒も見られる。家庭学習の定着にも課題が見られる。
課題 ○家庭学習の習慣が確立されていなかったり、家庭学習の内容や方法がわからずに、困り感を持つ生徒が何人か見られる。	具体的方策(教員の取組) ○自主学習ノート・セミナーを提出させる。 ○「家庭学習の手引き」等を利用したり、家庭学習の重要性を知らせ、効果的な学習方法を紹介するなどして、家庭学習の定着を図る。	取組指標 ○自主学習ノートの提出率を90%以上にする。 ○効果的な家庭学習の方法を、学級活動や各教科等で継続的に指導する。		評価 B	次年度における改善事項 学ぶことに興味や関心を持ち、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」をめざす。 学ぶことに興味や関心が持てるような授業をめざして授業改善の研修を行う。 自らの課題に向けて、主体的に行動できる生徒を育てることが重要であるとする。家庭学習の定着を図る。

平成30年度 学力向上ロードマップ

